

男性料理教室(開始当初:連続講座「男塾inたじま」)

川崎区役所田島地区健康福祉ステーション

川崎市川崎区役所田島地区健康福祉ステーションでは、高齢男性向け連続講座の参加者を社会参加につなげるため、ニーズに即した男性料理教室を提案。日頃から児童の個別対応で連携していたたじま家庭支援センターに調理室の貸与などを打診したところ、地域開放の方針と合致し、全面協力の快諾を得た。たじま家庭支援センター長の地域共生社会づくりに向けた役割の提案等もあり、子どもや地域との交流へと社会参加が拡大している。

概要・体制

- ・地域デビューを目指す連続講座「男塾inたじま」卒業生の「料理ができるようになりたい」という声を聞き、男性料理教室を提案。個別対応で連携していたたじま家庭支援センターと障害者施設を運営する社会福祉法人に打診。地域開放の方針に合致し、快諾を得た。
- ・男性料理教室は、参加者の自主運営で月1回、施設の調理室を会場に開催され、施設の専門職が支援にあたり、健康福祉ステーションの保健師も不定期で参加し、状況把握や提案などで継続的に関与・支援を行っている。

背景・課題

- ・川崎区田島地区は、独居高齢男性の割合が高く、地域とのつながりが乏しい地区。地域福祉計画には、その対策が盛り込まれていた。
- ・介護予防体操を行う男性向けのボランティア活動も存在するが、地域との関わりを軸にした社会参加のあり方が必要と感じていた。

男性料理教室(月1回)

障害者福祉施設の事業計画に位置づけ

- ・施設の地域開放の方針に合致
- ・調理室、調理道具、調味料などを提供。
- ・専門職員の支援
- ・運営費管理等
- ・役割の提案 など

たじま家庭支援センター
(障害者福祉施設を運営する社会福祉法人)

日常的に連携

- ・毎月開催
- ・参加者は7人(平均年齢70歳半ば)
- ・材料費500円を各自負担
- ・参加者同士で皮をむく、出汁をとる、写真を撮るなど役割を分担し、自主運営



施設側
社会福祉士、臨床心理士、看護師

協働

健康福祉ステーション側
保健師

効果

- 施設の畑で野菜等を栽培し、育てたスイカで施設の子もたちとスイカ割りなどの交流を行う。
- 施設の福祉まつりで調理したト汁を振る舞うブースを出展。
- 子ども食堂で不登校等の子どもたちに昔遊び等を教え、人気者になっている。
- 健康福祉ステーションは、「当初よりみな、表情が豊か。ある程度の社会参加を期待していたが、子どもとの交流にまで拡大しており、驚いている」「今後の活動の視点を得た」と述懐。

保健センターの連携機能・役割

- ・町会等に属さない独居高齢男性の多さや、地域福祉計画に対策の必要性が明記されたことなどから、地域デビューを目指す連続講座を企画。
- ・支所地域振興係と連携し、地域に広報。
- ・講座最終日に「料理」の不安を耳にし、男性料理教室を提案し、会場を模索。
- ・日頃、個別事例で頻りに連携している徒歩数分ほどの調理室を有するたじま家庭支援センター長に打診。地域開放の方針にも合致し、快諾を得る。
- ・日常的な連携で、施設側の機能やマンパワー、雰囲気などを把握していたことから、役割分担も円滑。
- ・講座終了後も健康福祉ステーションでは、料理教室に保健師をつけ、不定期ながら参加し、活動状況の把握、取り組みの提案等を継続している。
- ・児童虐待等のハイリスク対応に偏りがちな中、当該事例の経過等を業務会議等で共有している。
- ・こうした展開もあるため、地域に出向くよう指示。

川崎区役所田島地区健康福祉ステーション

最終日に「妻が体調不良。料理ができない」という不安を耳にした

独居高齢男性が多い社会参加の必要性地域福祉計画

連続講座「男塾inたじま」(平成29年度)

目的:独居高齢男性の生きがいづくり&地域デビュー
①これからのライフスタイルと社会参加の意義を考える「男の生きがいづくり」、②若々しさを保つ男の体力づくり、③「園芸とともに豊かな暮らし」、④「地域の中で自分らしく活動!」 *支所地域振興係の協力

効果・成果

- ・参加する独居高齢男性は当初より、表情が明るくなった。
- ・福祉まつりへの参加や子ども食堂の支援に求められて関わるようになった。
- ・核家族化の中、子どもたちのロールモデルの一人になっている。
- ・7人の参加者であり、エビデンスはとっていないが、地域共生社会づくりの一翼を高齢男性が担うようになった効果は計り知れない。
- ・個別事例の連携先が高齢男性の社会参加の受け皿になり得るという成功体験をした。

ポイント

- 講座参加者の力を信じ、活躍の場を探した、●個別対応で接点があった資源の機能等を活用した、●介護予防体操等の役割に押しとどめず、料理という主体的ニーズに着目した、●施設側ニーズも把握していた、●事例経過を継続把握し、人材育成に活用

男性料理教室(開始当初:連続講座「男塾inたじま」)

川崎区役所田島地区健康福祉ステーション(連携体制構築に向けたプロセス)

俯瞰的立場の職員が存在

・支所長提案の地域振興係との定例会が連携に奏功。・地域共生への高齢男性の関与の意義をたじま家庭支援センター長が提案。



A 俯瞰的立場の職員



① 位置について

位置についてヨーイ

・川崎市川崎区の田島地区は、工場地域であり、市内でも高齢化率が高い地区であると認識していた。
・担当保健師は「高齢男性には社会参加し、健康で自分らしい生き方を模索してほしい」と考えていた。



② 根拠を集める

根拠を集める

・地区踏査等で町内会等に属さない独居高齢男性が多く、「妻が体調不良。自分は料理ができない」などの声を把握。
・地域福祉計画には、独居高齢男性対策が明記されている。



⑥ 育てる、促す

育てる、促す

・協力が得られ、講座で終わらず、自主的な料理教室に発展。
・材料費500円を参加者が出し、たじま家庭支援センターも子ども食堂の調味料等の提供など行政にできない支援を実施。
・同センターの働きかけで、職員やボランティアに料理を提供。
・野菜づくり等で子どもたちとの交流のほか、福祉まつりへの参加、子ども食堂での昔遊び、ロールモデルにまで発展。



① 位置について



① 風をつかむ

風をつかむ

・介護予防で「社会参加」が注目されている中、地域とつながりのない独居高齢男性の多さを把握。
・そこで、地域デビューのための連続講座「男塾inたじま」を企画した。



② 根拠を集める



③ 仲間をつくる

仲間をつくる

・講座の実施にあたり、接点のあった講師に打診。周知の工夫のため、支所の地域振興係の協力を得る。
・講座最終日に「料理ができない」という不安を耳にし、男性料理教室の必要性を把握。そこで、児童の個別対応で頻りに連携していたたじま家庭支援センターに声掛け。障害者施設を併設し、調理室も持つため、同センター長が場所の提供などについて、快諾した。



④ 協議組織をつくる



⑤ ツールをつくる

協議組織をつくる

・協議組織はないが、福祉施設は専門職3人、保健福祉ステーションセンターは保健師が担当し、フォローを継続。



⑥ 育てる、促す



⑦ 評価・フィードバック

評価・フィードバックする

・参加者7人、単発の事業であり、特別な評価作業は行っていないが、担当保健師が不定期ながら一緒に参加し、状況把握、提案等を実施。

人材育成の意識



B 人材育成の意識

・地域づくりがミッションだが、母子保健から介護予防までを担う上、地区担当制であるため、業務の大半が虐待等を含む母子関係の困難事例対応となり、十分な地域活動が行えないという事情がある。しかし、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチのバランスが重要とし、係会議や業務検討会等の場で、本事例の経過を報告するなど、地域づくり活動の展開について話し合い、着手できるよう努力している。また保健師には、なるべく地域へ出向き、人材をつかむ時間を担保できるよう、意識的に配慮している。